

研修医のコーナー

たくさんの先輩に囲まれて

JCHO九州病院 おおつる 大鶴 わたる 亘

この度はこのような機会をいただき、ありがとうございます。JCHO九州病院初期臨床研修医 1 年目の大鶴亘と申します。兵庫県出身で、九州大学を卒業し今に至ります。住む以前は何となく怖いと感じていた黒崎の町でしたが、夏に病棟の窓から見える皿倉山の景色や、黒崎祇園山笠の時期に駅周辺で聞こえる太鼓の音など素敵な面がたくさんあると感じております。

執筆している現時点 (2019 年 3 月) でおおよそ 1 年間の研修期間が終了しました。この 1 年は先輩医師の診療を模倣しながら、たくさんの症例を経験させていただき、各疾患ごとの診療の「型」を作る作業に勤しんだと思います。同じ疾患であっても人それぞれに診療の「型」があり、診療科の枠を超えて多くの先輩方から「型」を吸収できるといった研修医の身分はとても幸せだと感じました。次の 1 年は、より能動的に文献を引き、自分なりに筋の通った「型」を作ることが出来ればと考えております。

医師として働き、1 年という短い期間でもたくさんの印象的な患者さんに出会うことが出来ました。癌と闘病し肉体的、精神的にすり減っていきながらもその現実を受け止めて進んでいか

れる方、誘惑に負けてカップラーメンの汁をすすり心不全を繰り返す方、病気を通すことで人間の綺麗な部分も汚い部分もより明瞭に浮き彫りになると思います。そんな人生の先輩方から一番近いところでお話が聞けるのも研修医が恵まれている点の一つだと思いました。

病院の中で、社会人、医療人として先輩である、看護師、技師、薬剤師の方々。それぞれの立場で患者さんを思いやり、仕事の効率を考えながら働かれており、同じ現場でも視点が違えばそれぞれ違った考え方が生まれてくるのだと感じました。研修医 1 年という小童でさえ、「先生」として扱っていただき、頼りないながらも責任が生じたことで、早く判断すること、分かりやすく指示を出すこと、毅然と振る舞うことの大事さを学んだように思います。

このように社会に出て 1 年、立場に関係なくたくさんの「先輩」と出会うことが出来ました。これからも先輩方から多くを学び、医師としても人としても成長していけるように研鑽を積んでいこうと思います。今後ともどうぞ、よろしくお願いたします。